

教育研究業績書

令和5年5月1日
氏名 上村 健二印

教育上の能力に関する事項

事項	年 月	概要
1 教育方法の実践例	平成23年4月～	①心理学部の総合英語においてにおいて、学力別クラス編成を実施。 ②オフィスアワー及びメールにて、学生からの質問・相談を随時受け付けている。 ③学生生活入門Ⅰ及び学生生活入門Ⅱにおいて、課題をTeamsで提出させている。
2 作成した教科書・教材	令和3年4月～	学生生活入門Ⅰ及び学生生活入門Ⅱにおいて、テキストを作成・改訂し、授業で使用している。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		特記事項なし
4 実務の経験を有する者についての特記事項		特記事項なし
5 その他		特記事項なし

職務上の実績に関する事項

事項	年 月	概要
1 資格、免許		特記事項なし
2 学校現場等での実務経験		特記事項なし
3 実務の経験を有する者についての特記事項		特記事項なし
4 その他	平成18年～	学校法人北白川学園評議員

様式第4号 (教員個人に関する書類)

担当授業科目に関する研究業績等						
担当授業科目	著書、学術論文等の名称	単著 共著	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	執筆ページ数 (総ページ数)	概要
総合英語 英語で読む 健康科学 映像メディア英語	(学術論文等) 1. The Rape of the Lock と古代叙事詩のモチーフ―「力か策略か」をめぐって―	単	平成4年9月	京都大学西洋古典研究会「西洋古典論集」X	54-63	ホメロス『オデュッセイア』とウェルギリウス『アエネイス』に現れる「力か策略か」という重大なモチーフを、イギリスの詩人ポーブがいかにして滑稽な疑似英雄詩の中で利用したかを論じた。
	2. ローマ喜劇における sed の訳語について	単	平成23年3月	甲子園大学紀要第38号	31-35	ラテン語の接続詞'sed'は「それより」などと訳せる場合があることを、英語の'but'の用法と比較することにより指摘し、ローマ喜劇の幾つかの場面でまさにそう翻訳すべきであることを示した。
	3. ポローニアスの訓戒の材源―シェイクスピア『ハムレット』とプラウトゥス『三文銭』―	単	平成29年3月	甲子園大学紀要第44号、	17-21	『ハムレット』第1幕3場におけるポローニアスの訓戒、特に「友人と金の貸し借りをしてはならない」という金言がローマ喜劇『三文銭』の2つの箇所を組み合わせる材源としていることを明らかにした。
学生生活入門Ⅰ・Ⅱ	(学術論文等) 1. 大学生と大学教職員が考える「よいノート」の要件―「甲子園大学ノート大賞」でのコメントを基に―	共	平成27年3月	徳島大学総合教育センター「大学教育研究ジャーナル」第12号	62-70	大学生や大学教職員が「よいノート」について記したコメントを分析し、それぞれの立場によるノートに対する考え方の違いの一端を示した。 (共同研究につき抽出不可。コメントの分析・解釈について執筆。) 著者：増田将伸、西川真理子、上村健二、岡邑衛
	2. 学生支援としての「ステップアップ講座」の効果の検証―受講者アンケートの自由記述の分析から―	共		甲子園大学紀要第42号、	37-45	甲子園大学において学習支援事業として行われてきた「ステップアップ講座」に対する受講者アンケートの分析を通じて、学生がその特徴をどうとらえているかを具体的に示し、学習支援としての効果を検証した。 (共同研究につき抽出不可。アンケートの分析・解釈について執筆。) 著者：増田将伸、西川真理子、上村健二、岡邑衛

様式第4号 (教員個人に関する書類)

哲学	(その他) [翻訳]					
	1. キケロー 『クルエンティウス弁護』	単	平成13年3月	岩波書店	89-209、 403-409	キケローの法廷弁論。刑事訴訟としては代表的なものの一つ。本邦初訳。『キケロー選集1』所収。
	2. キケロー 『デーイオタルス弁護』	単	平成13年3月	岩波書店	365-391、 437-441	キケローがカエサルの面前で行った弁論の一つ。本邦初訳。『キケロー選集1』所収。
	(著書)					
	1 『はじめて学ぶラテン文学史』	共	平成20年10月	ミネルヴァ書房	57-73	古代ローマ文学史の入門書。章立てが時代別でなくジャンル別であること、および主要作品の引用(原文+訳)があることを特徴とする。第2章「喜劇」を担当し、後世への影響を扱ったコラムを付加。
	(学術論文)					
	1 ウェルギリウス『アエネイス』-maius opusの解釈をめぐって-	単	平成元年9月	西洋古典論集6	53-75	英雄叙事詩『アエネイス』の後半が「より大いなる仕事」と呼ばれている理由を論じた。即ち、後半では「イタリア人の偉大さ」という要素が加わることにより、より重要なテーマを扱うことになる。
2 『アエネイス』におけるニススとエウリュアルス-dolus an uirtusをめぐって-	単	平成2年12月	西洋古典論集8	43-54	『アエネイス』第9巻のエピソードに「策略か武勇か」というテーマがあることを指摘した。即ち、誉れは策略でなく武勇により求めるべきだという詩人の思想が具現されている。	
3 パラダイグマとしてのヘルクレスとオレステス-Aeneis 第6・8巻とOdysseia 第1-4・11巻の対応-	単	平成4年3月	西洋古典学研究40	78-87	『アエネイス』におけるヘルクレスが『オデュッセイア』におけるオレステスと対応していることを指摘し、第8巻のカクスのエピソードの解釈に援用した。即ち、主人公アエネアスにとってヘルクレスは(策略でなく)武勇による復讐者としての範例である。	
4 プラウトゥス Trinummus	単	平成7年3月	西洋古典論集12、	15-28	プラウトゥスの喜劇『三文銭』では伝統的美徳(特に信義と友情)が盛んに賛美されるが、実はこれらが喜劇的效果を上げるためにも利用され	

様式第4号 (教員個人に関する書類)

	<p>における道徳的 主題について-喜劇的 効果を上げる fides と amicitia-</p>					<p>ていることを指摘した。</p>
	<p>5 テレンテ ィウス『義母』 における「知 るべきでない 人々」</p>	<p>単</p>	<p>平成11年 3月</p>	<p>甲子園 大学紀 要人間 文化学 部編2 (c)</p>	<p>17-29</p>	<p>テレンティウスの喜劇『義母』では、 一部の登場人物が事の真相を知らぬ ままに終わり、彼らが「知るべきで ない人々」と呼ばれている理由を論 じた。</p>
	<p>6 トウルヌ スと dolus — 『アエネーイ ス』第11・ 12巻—</p>	<p>単</p>	<p>平成13年 3月</p>	<p>甲子園 大学紀 要人間 文化学 部編4 (c)</p>	<p>23-32</p>	<p>『アエネイス』後半におけるイタリ ア人の英雄トウルヌスと「策略か武 勇か」のモチーフとの関わりを論じ た。即ち、トウルヌスには、本人の 言明とは裏腹に、策略を利用する面 がある。</p>
	<p>7 『アエネイ ス』第7巻に おける「内乱」 の勃発</p>	<p>単</p>	<p>平成20年 3月</p>	<p>西洋古 典論集 21</p>	<p>37-52</p>	<p>ウェルギリウスの叙事詩『アエネイ ス』後半の戦いを引き起こす女神ア ッレクトの役割を新たな観点から論 じた。</p>
	<p>8. 『百合若大 臣』と『オデ ュッセイア』 の類似性再考 —人物、思想、 表現の対応—</p>	<p>単</p>	<p>令和2年3 月</p>	<p>甲子園 大学紀 要第4 7号、</p>	<p>7-25</p>	<p>幸若舞の『百合若大臣』と古代ギリ シアの英雄叙事詩『オデュッセイア』 の細部における類似性を再検討し、 坪内逍遙以来の南蛮伝来説を修正し た。</p>
	<p>(その他) [翻 訳]</p>					
	<p>1 ネポス 『英雄伝』</p>	<p>共</p>	<p>平成7年3 月</p>	<p>国文社</p>	<p>9-78, 182-18 4, 205-21 8</p>	<p>ギリシア・ローマの著名人のラテン 語による伝記集。本邦初訳。主に前 半を担当</p>
	<p>2 プラウト ゥス『三文銭』</p>	<p>単</p>	<p>平成14年 4月</p>	<p>京都大学 学術出版 会</p>	<p>391-49 3、 625-63 1</p>	<p>プラウトゥスの喜劇の一つ。伝統的 美徳が賛美されるとともに、道徳論 のパロディ的な面もある。『ローマ 喜劇集4』所収</p>

様式第4号 (教員個人に関する書類)

	3 テレンティウス『義母』	単	平成14年 8月	京都大学 学術出版 会	477-56 1、 711-71 7	テレンティウスの喜劇の一つ。笑劇的な面の少ないまじめな作品で、作者の意欲的な試みが含まれる。『ローマ喜劇集5』所収
	4 クルティウス・ルフス『アレクサンドロス大王伝』	共	平成15年 9月	京都大学 学術出版 会	244-46 9	ラテン語で書かれたアレクサンドロス大王の伝記。本邦初訳。後半を担当。